

「観譽の墓碑」について

整理番号	浦和〇六	題額	観譽上人	題額揮毫	—	碑記撰文	願譽玄舟	碑記揮毫	—
------	------	----	------	------	---	------	------	------	---

鐫刻	—	撰文建碑年	一八六九・明治二頃	住所	桜区宿	場所	観音寺	備考	和文
----	---	-------	-----------	----	-----	----	-----	----	----

一. はじめに

本石碑は、観音寺十四世住職観譽上人の筆子塚で、十六世住職の玄舟によって作成されたもの。

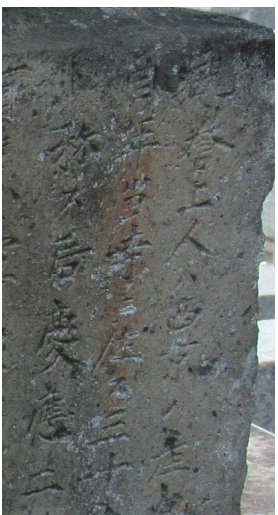
一番下の台座正面に「筆子連盟」とあり、左右面に名前が列記されている。中台座の上に碑銘が記された四角柱の墓石がある。さらにその上に蓮花座をはいた卵塔墓。

碑記に年月日を記さないが、観譽の逝去が明治二年なので、その年のものとした。

○写真1 石碑正面



○写真2 「碑記」部分



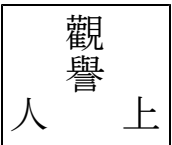
二 翻刻並に訳注

*現在、左側面は表面に剥落摩滅があり、五行目中程は判読できない。

■ 翻刻

(正面)

◎ 題額



◎ 碑記

(左側面)…五行目現在判読できず、「埼玉県教育史近世文集」によって補った部分に傍線を引いた。◆◇◇部分は、「埼玉県教育史金石文集」でも三文字分を判読不能として、空格を充てている。

觀譽上人ハ西京之産也天保八丁

酉年当寺ニ住ス三十餘年十四世

ト称ス后慶應二丙寅年故

有テ小室ノ里願生寺ニ転主シ

廿三世ト◆◇◇ナラス而明

治二己巳年六月廿三日寂シ

彼地ニ埋葬ス

于時歳六十一

(右側面)

觀譽附弟

當寺十六世

願譽玄舟

* 文字の補足

◆ 判読できないが、「称ス」ではないか。訳注ではこれを用いた。

◇◇ 判読できないが、前後から推して「幾何」ではないか。訳注では、これを用いた。

■ 訳注

◎ 碑記

● 本文 (いわゆる旧字体とし、一行毎に改行した)

觀譽上人ハ、西京之産也。

天保八丁酉年、当寺ニ住ス。
三十餘年十四世ト称ス。
后慶應二丙寅年、故有テ小室ノ里願生寺ニ転主シ、廿三世ト称ス。
幾、何ナラス而明治二己巳年六月廿三日、寂シ、彼地ニ埋葬ス。
時ニ歳六十一。

觀譽附弟當寺十六世 願譽玄舟

●人物

○觀譽上人 觀音寺に立つ「觀音寺歴代上人」碑に「十四世 妙蓮社觀譽上人聖阿智道察 岡老和尚 明治二己巳年六月廿三日寂」とある。碑文中にも触れている、現伊奈町小室願成寺墓地に立つ歴代住職の「墓碑」に「二十三代妙蓮社觀譽上人聖阿智道察岡大和尚」とある。
○願譽玄舟 觀音寺に立つ「觀音寺歴代上人」碑に「十六世 誓蓮社願譽上人讚阿乘恵玄舟和尚 明治卅年九月 南埼玉郡大泊安国寺へ埋葬ス」とある。現越谷市大泊安国寺の「安国寺歴代住職之墓碑」に、「二十八世 願譽玄舟和尚 大正三年九月二十日寂」とある。また、本觀音寺に「誓蓮社願譽上人讚阿恵乘玄舟老和尚」の題を持つ、玄舟の寿藏碑があり、その事跡について詳細にしるしている。

●注

○西京 京都の異称。
○天保八丁酉 一八三七年。徳川家斉の末年。
○慶應二丙寅 一八六六年。徳川家茂の末年。
○小室願生寺 現伊奈町小室の願成寺であろう。現在、願成寺墓地に立つ、歴代住職の「墓碑」に「二十三代妙蓮社觀譽上人聖阿智道察岡大和尚」の名がある。
○幾何 まもなく。
○明治二己巳 一八六九年。享年六十一とあれば、生年は文化六（一八〇九）年。

●口語記

觀譽上人は、京都の出身である。
天保八（一八三七）年に、當觀音寺の住職となった。
三十年あまりつとめ、十四世と称した。
のち、慶應二（一八六六）年に、事情により伊奈小室の願成寺に転じて住職となり、二十三世と称した。
しかしそれからまもなく、明治二（一八六九）年六月二十三日、死去し、願成寺に埋葬された。
時に歳六十一であった。
觀譽の弟子で當觀音寺の十六世である願譽玄舟が記す。

三. 資料

（一）「新編武蔵風土記稿」卷一五四 足立郡之二十 植田谷領

◎宿村…寺院

○観音寺

「寺領八石の御朱印を賜はれり、浄土宗、鴻巣勝願寺の末、開山の僧を玉念と云、寂年は詳ならず、本尊三尊彌陀を安ぜり、行基の作と云」

(二)「武蔵国郡村誌」卷之十二

◎宿村…仏寺

○観音寺

「縦四十六間横廿五間面積千百六十八坪村の北方にあり浄土宗本郡鴻巣宿勝願寺末派なり」

四. 主な参考資料

① 翻刻

・埼玉県教育委員会『埼玉県教育史金石文集 上』(埼玉県教育委員会、一九六八)

以上

二〇二四年一月 薄井俊二訳す